

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 25 日現在

機関番号：32612
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26370291
 研究課題名(和文) クリストファー・マーロウ『フォースタス博士』の校訂本をマローン協会から出版する

 研究課題名(英文) Publishing Christopher Marlowe's *Doctor Faustus* from the Malone Society

 研究代表者
 英 知明 (HANABUSA, Chiaki)

 慶應義塾大学・商学部(日吉)・教授

 研究者番号：60218518
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、英国に僅か一冊ずつしか現存しない『フォースタス博士』のAテキストとBテキストの古版本を直接使用し、多くの書誌学データを収集して印刷当時の歴史情報を復元することが第一であった。そしてその結果をマローン協会から出版する校訂本のイントロダクションとして英語で執筆、完成させた。

本悲劇のAテキストはボドリアン図書館に収蔵されており、Bテキストは大英図書館が保管している。1年目にAテキストの印刷工程研究を実施し、2年目はBテキストについて同様のリサーチを行った。最終の3年目は、さらに補完的なリサーチを春と秋の二度渡英し、書誌学情報を全体を統合してイントロダクションを執筆した。

研究成果の概要(英文)：The main goal of this research was to complete a two-volume MSR edition of Christopher Marlowe's *Doctor Faustus* that will be published in 2018-19. The editions will provide both A-Text (1604) and B-Text (1616) with a bibliographical and textual introduction.

I stayed in London and Oxford to carry out my full scale bibliographical research of the two texts of *Faustus*. I could successfully gather a variety of textual data from the only surviving copies of A and B held in the British Library and the Bodleian Library. My introduction to the forthcoming two-volume edition of Faustus will be able to offer analysis of the printing process of both A and B, discussion on the paper and watermark, and identification of the nature of the copy-text based on the existing scholarship on early modern playhouse manuscripts and their transmission to the printed texts. A broad range of discussion on the relationship between the printers and the publishers of *Faustus* will also be provided.

研究分野：イギリス文学

キーワード：マーロウ フォースタス博士 マローン協会 書誌学 イギリス演劇 シェイクスピア

1. 研究開始当初の背景

マロウの悲劇『フォースタス博士』は、複雑な作品出版の背景を持つ戯曲である。この作品の最初の上演記録が現れたのは、マロウが亡くなった1593年の翌年1594年の9月30日のことで、その後1597年10月までの三年間に、少なくとも二十五回も上演されたことがわかっており、その人気ぶりはシェイクスピアと同等かそれ以上であったろう。その人気の高さが書籍業者たちの関心を惹かずにいたはずはなく、その後1601年1月7日に出版業者 Thomas Bushell が『フォースタス博士』を「書籍業組合出版登録簿」に登録するのだが、ここから本作の「長く不明確な出版の歴史」が始まることになる。

1601年に出版登録されたものの、実際の印刷はその後すぐには行われないうまま、翌1602年11月に、ヘンズロウは本作品についての興味深い記録を残している。彼の『日記』に記された記録を読むと、ヘンズロウは「『フォースタス博士』への加筆のため」として、別の二人の劇作家 William Birde と Samuel Rowley に計4ポンドという高額な報酬を支払っている。そしてその二年後、ようやく初めての印刷本が出版されることになる。すなわち、1604年に印刷業者 Valentine Simmes が出版業者 Thomas Bushell の依頼を受けて印刷した四つ折本 (Quarto) がそれで、これが現存する最古の古版本である。この四つ折本は、シートAからFまでの6シートで構成されたもので、これを研究者たちはAテキストと呼んでいる。

その後 Bushell から出版の権利を譲渡された同業者の John Wright は、第二版の四つ折本を1609年に、第三版の四つ折本を1611年に出版し、これらはいずれも1604年の第一版のリプリント版にすぎず、印刷業者 George Elde によって印刷されたことがわかっている。

『フォースタス博士』の作品出版に大きな動きがあったのは、1616年のことである。この年、Wright は第四版を出版するのだが、この四つ折本は以前のものとは大きく異なり、シートがAからHまで8シートで構成されており、作品全体でおよそ650行も長くなった。この拡大版の『フォースタス博士』は、研究者間ではBテキストと呼ばれている。またBテキストの印刷業者がタイトルページに印字されておらず、現在に到るまで全く不明で未解決の問題として残っている。

こうして長さが大きく異なる二種類の古版本、AテキストとBテキストを持つ『フォースタス博士』が抱える最大の課題は、いかにして現代校訂本を編纂するかということにある。より具体的に言うと、どちらのテキストを「校訂本の底本 (copy-text)」にするかという問題である。これについては、19世紀以来研究者や編纂者の間で意見が大きく分かれており、Alexander Dyce の校訂本 (1850) A. H. Bullen の校訂本 (1885) C.

F. Tucker Brooke の校訂本 (1910) などは、Aテキストを底本に選び、Bテキストとの本文の相違を巻末に付記するのみという編纂方針であった。

一方、Frederick S. Boas は、加筆を行った二人の劇作家にはよりオリジナルに近い原稿が渡ったと考え、Bテキストを底本に選び自らの校訂本 (1932) を編纂した。20世紀半ばに入ると、W. W. Greg は、AテキストはBテキストの短縮版 (いわゆる不良四つ折本) であるの見なし、またBテキストには二人の劇作家の加筆部分があることから、どちらか一方を選択する従来の編纂方針から離れ、AテキストとBテキストの両方を見開きページに左右に分けて掲載する「パラレル」な本文を持つ校訂本 (1950) として出版した。その後になっても研究者間で編纂方針の一致は見られず、Fredson Bowers はBテキストは拡大されただけでなく改訂もされているという根拠の元、Bテキストに基づいた校訂本 (1973) を編纂した。

こうした編纂方針の乱立は20世紀後半から今世紀に掛けても未解決のまま変わっておらず、Roma Gill が劇場用台本により近い理由からAテキストを底本に校訂本 (1990) を出版した一方、David Bevington と Eric Rasmussen は、AとBの両テキストを一巻にまとめた校訂本 (1993) を発表した。今世紀に入り、David Scott Kastan もA、B両方の本文を一冊の校訂本 (2005) として出版したが、Michael Keefer はAテキストを底本としてBテキストは巻末に載せるに留めた校訂本 (2008) を作った。最近では、Sylvan Barnet がBテキストを底本とした校訂本 (2010) を出版している。『フォースタス博士』の校訂本編纂方針は、かくしてAテキスト、Bテキスト間で分裂し、理論統合されないまま未解決の課題として現在に到っているのである。

2. 研究の目的

こうした長く錯綜した校訂本出版の歴史の背景には、『フォースタス博士』の本文校訂作業に、主観を交えた批評的解釈や古めかしい二十世紀半ばの底本理論に基づいて、推論の上に推論を重ねる研究方法が取られたという事実がある。どちらがより作者マロウの意図した作品に近いかという理想を掲げ、作者の最終本文の復興を目指したものの、そこでは多くの場合、編者の作品解釈に基づく恣意的な主張を通して作品が編纂されてきたという事実は否めない。本研究期間内に明らかにしたかったことは、先ずはオリジナルの古版本に立ち返ること、そして分析書誌学的手法を用い、AテキストとBテキストの古版本が持つ本文の印刷過程の特徴を隅々までつぶさに検証し、それぞれ二つのテキストの生成の歴史を正確に遡り、その成果を出版することであった。具体的には、現存するAとBの印刷に使われた印刷原稿の推測、こ

の二つの古版本の各ページが持つ物理的な特徴や計測値、ヘッドラインや植字工の判別、印刷に用いられた印刷用紙の研究や損傷活字の調査、そしてとりわけBテキストの印刷業者の特定が含まれた。これらを詳らかにすることで、AおよびBテキストが持つ歴史的な特徴と存在意義を明らかにし、17世紀に印刷されたオリジナル本文に今一度戻って、21世紀の『フォースタス博士』校訂本編纂への「再出発点」とした。

マローン協会からは、英文のイントロダクションが付いた写真版の校訂本AテキストとBテキスト二巻本の『フォースタス博士』が今後出版される予定である。これにより、最新の書誌学情報を載せた<二つの『フォースタス博士』のオリジナル本文>を提供することが可能となった。こうした写真版テキストは、十分な序文も解説も無いTudor Facsimile Text(1914)や Scholar Press Facsimile(1970)といった僅かな先例を除きここ数十年間ほとんど例がなく、本研究は学術的に価値の高い研究のソースとなると思われる。合成本文を提供するのではなく、作品のオリジナル本文に立ち返るといふこの方針は、同様に複雑な校訂本編纂の歴史を持つシェイクスピアの『リア王』や『ハムレット』が、近年では複数のオリジナル本文を出版する動きを加速させており、こうした流れにも沿うものと言える。本研究の成果は、結果的に世界中のマローウ研究者に新たな書誌学情報と知識を提供することになり、今後の『フォースタス博士』研究のいっそうの進展を誘発し、さらに精巧かつ正確な校訂本編纂理論を生み出すための情報の宝庫となってもらいたい。

3. 研究の方法

本研究は、平成26年度から平成28年度までの三年間で遂行された。マローン協会が発行する Malone Society Reprints シリーズの特徴として、写真版本文の前に当該作品の書誌学上極めて詳細なイントロダクションが加わる。ここでは、先行研究の概要、書籍業組合登録簿の問題、作品出版に至る経緯やそれぞれの印刷所と出版業者間の関係、印刷に使用された原稿の性質、ヘッドラインや印刷紙の分析などから判明する印刷工程、特徴的な植字スタイルやスペリングの違いなどから推測できる植字工の人数など、本文研究及び分析書誌学の観点から緻密な議論を展開することが求められた。

これまでの『フォースタス博士』の先行研究には、その書誌学研究のスタイル・方法に大きな問題点があった。AテキストとBテキストに関する先行研究の著名なものとして、Fredson Bowers が編纂した校訂本(1973)がある。Bowers はこの中で植字工分析やヘッドラインの識別等の古版本分析を行っているが、彼の議論のソースそのものは彼自身のリサーチの結果ではなく、また別にある。彼が使用した先行研究は、9年前に Robert Ford

Welsh が完成させた未公開の博士論文であり、これは1964年にデューク大学に提出されたものである。この中で Welsh は二人の植字工を同定し、ヘッドラインや speech-prefix の特徴などを研究した。しかしこの論文が持つ大きな問題点は、Welsh の研究がすべて A テキストと B テキストの「マイクロフィルム」を使った研究であり、現存する古版本を一切使わずにリサーチを行っている点にある。書誌学研究が実物の古版本を使わずには遂行できないことは、1980年代以降次第に明らかとなり、マイクロフィルムを使用した研究は現代ではほとんど認められていない。著名な書誌学者 Bowers の研究も、そうした危うい研究の上にさらに検証を重ねたもので、信頼性に大きな疑問符が付く。

本研究遂行の第一の方法として、オクスフォード大学ポドリアン図書館に所蔵されている A テキストの古版本を直接手に取り、マイクロフィルムからは探索できない精緻な書誌学情報を収集し、マローン協会が求める高い水準のイントロダクション執筆用データの集積を行った。リサーチは具体的には、オクスフォードに滞在して、ポドリアン図書館館内で A テキストの各ページの実計測ほかを行い、オリジナルな古版本からしか観察できない印刷紙の watermark をスケッチし、さらに損傷活字を用いた活字の流動性の問題等を検討した。

上述したように『フォースタス博士』の校訂本は、膨大な数が19世紀以来これまで出版されてきた。しかしその序文や解説に、作品の古版本を実地で詳細に研究し、多くのデータを検証して価値ある書誌学情報を幅広く掲載したものは皆無に近い。その中で Eric Rasmussen の校訂本は、当時としては新たな情報を盛り込んだ優れた研究成果ではあったが、その研究対象は A テキストのみに限られており、また書誌学情報を扱う箇所は僅か9ページの長さでしかない。したがって、B テキストについては、1964年にマイクロフィルムを使用して行った Welsh の博士論文以来、ほぼ半世紀に渡って緻密な書誌学研究がまったく行なわれて来なかった。その象徴的な事実が、B テキストの印刷業者が判明していないという点であった。

研究遂行の第二の方法として、B テキストのオリジナル古版本を使った詳細かつ精密な書誌学研究を行った。渡英しロンドンに滞在して、大英図書館に残るわずか一冊の古版本を詳細に調査し、これまでの先行研究の概要や、印刷原稿の性質の推測、ヘッドラインや watermark などから判明する印刷工程、植字スタイルや特徴的なスペリングから推測できる植字工の人数などについてのデータの収集に努め、渡英前と帰国後にイントロダクションの執筆を開始した。また B テキストの研究に関してこれまで無視されて来た「印刷業者の特定」も行なった。特定の方法は、Adrian Weiss の論文にあるように、損傷活字

をBテキストからピックアップし、ほぼ同じ年にロンドンで印刷された様々な古版本で大英図書館に収蔵されている作品から、全く同じ損傷活字を探し出すことにより証明可能となるため、これを実行した。印刷業者を特定することで、Bテキストを印刷した印刷業者と『フォースタス博士』の新たな関係が判明することになり、彼らの結びつきや提携関係も明らかにすることができた。

本研究の最終年度には、それまで二年間に渡り集積した書誌学データの精度を高めるため、購入したAテキストやBテキスト以外の『フォースタス博士』のデジタル画像やマロウや他の劇作家の作品のデジタル画像を用いて検証した。また夏と秋に渡英し、オクスフォードとロンドンに約二週間ずつ滞在して、AテキストとBテキストについて付加的・補助的なリサーチを行い、書誌学情報とデータの正確性を高めた。またそれぞれのテキストのイントロダクションの執筆を加速させ、平成28年度末には本研究を終了した。原稿は、マローン協会に提出して査読を受け、2018-19年度内(または翌年度)にマンチェスター大学出版局から出版・刊行される予定である

4. 研究成果

本研究の目的は、1906年にロンドンで創立され、すでに100年を超える歴史を誇るマローン協会(The Malone Society)の依頼により、シェイクスピアと同時代の劇作家であるクリストファー・マロウの悲劇『フォースタス博士(Doctor Faustus)』の校訂本をMalone Society Reprintsシリーズから出版・刊行することであった。

本研究は、平成26年度から平成28年度までの三年間で遂行された。研究方法は、英国に僅か一冊ずつしか現存しない『フォースタス博士』のAテキストとBテキストの古版本を直接使用し、多くの書誌学データを収集して印刷当時の歴史情報を復元することであった。そのデータに基づき、校訂本に掲載するテキスト別のイントロダクションを英語で執筆し、完成させることが大きな目的であった。

本悲劇のAテキストはオクスフォード大学ボドリアン図書館に収蔵されており、Bテキストは大英図書館が保管している。1年目にAテキストを対象とした印刷工程の研究を実施し、2年目はBテキストについて同様のリサーチを行った。そして3年目はさらに補完的で極めて詳細なリサーチを春と秋の二度に渡ってロンドン、オクスフォード、ケンブリッジで行い、それらの書誌学情報を統合して基本データとしての精度を高めた。ケンブリッジでは、Bテキストに関連した印刷所特定のための重要なリサーチを、ロンドン、オクスフォードに加えて追加で行うことが出来た。最終3年目の年度末には、AテキストとBテキスト校訂本2冊のイントロ

ダクションの原稿を完成させた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

英 知明、印刷所の『ロミオとジュリエット』初版原稿の生成プロセス、甦るシェイクスピア 没後四〇〇周年記念論集、査読有、2016、62-83

Chiaki Hanabusa、The Text of the First Quarto of *Titus Andronicus* (1594)、*Shakespeare Studies: The 400th Anniversary Special Issue*、査読有、53巻、2016、1-25

英 知明、シェイクスピア時代の演劇古版本、書物学、査読有、7号、2016、1-9

英 知明、『フォースタス博士』覚書き本文・書誌学研究の観点から、シェイクスピア時代の演劇世界 演劇研究とデジタルアーカイヴズ、査読有、2015、215-34

〔学会発表〕(計 2 件)

英 知明、Bad Quarto 再考 理論と史的考察、第55回日本シェイクスピア学会、2016年10月8日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)

英 知明、シンポジウム(司会・講師): 第一部門 演劇制作の現場から シェイクスピアと初期近代演劇の「共作」、第88回日本英文学会全国大会、2016年5月28日、京都大学(京都府京都市)

〔図書〕(計 1 件)

英 知明、佐野隆弥、田中一隆、辻 照彦共編、九州大学出版会、シェイクスピア時代の演劇世界 演劇研究とデジタルアーカイヴズ、2015、260(215-34)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

英 知明 (HANABUSA, Chiaki)
慶應義塾大学・商学部・教授
研究者番号：6 0 2 1 8 5 1 8

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()